

平成 30 (2018) 年度 もソやま“夢”プロジェクト 高校生カウアイ郡派遣 報告書

小林 千夏

○ 3月25日 (月)

リフエ空港に到着すると、アート梅津さんたちが笑顔で迎えて下さり、ワワイの奥の首飾りと、迷子にはならないように、と、3人おそろいの帽子もいただきました。そして、カウアイ高校へ行くと、急遽、日本語クラスの授業に参加させていただくことになり、緊張しながらも、英語で自己紹介をしました。自分の名前の由来も説明すると、頷いて聞いてくれる生徒さんがいて、嬉しかったです。3人とも自己紹介を終えると、日本語クラスなので、日本語でそれぞれ自由に質問することになると、近くに寄ってきて「すきなアイドモのはなんですか」「レハは何ですか」など、みんなとても流暢な日本語で質問してくれて驚きました。また、好きな日本食を聞くと、お寿司、ラーメンが多数だったけれど、意外ときなもち、にしめなども人気で、よく知っているなど驚きました。日本語クラスの先生からは、「JAPANESE CLUB」の生徒がデザインしたTシャツをいただきました。そして、ウクレレの素敵なチャインが流れ、授業が終わると、ホストファミリーとなるリソーと初対面しました。

カウアイ郡長さんのオフィスへ表敬訪問させていただくと、お得意だという手品を披露してくださり、とてもすごかったです。カワカミ郡長さんとは、将来の夢や部活について語ったり、郡長さんが日本に来たときに感じた日本の素晴らしさをお話していただきました。それから、「FROM JAPAN TO HAWAII, MY JOURNEY」というカウアイと日本のつながりの歴史について英語で書かれた本も貸していただきました。

ホームステイ先の家へ到着すると、猫を3匹飼っていて、どの猫も人なつこくてかわいかったです。夕食は、ホストファザーがレストランへ連れて行ってきて、ハビスカスジュースやシーザーサラダ、チリカレーのようはものを食べました。

○ 3月26日 (火)

朝ごはんは、リソーがスモムと卵の炒め物、白ごはんを用意してくれて、食卓にはふりかけもあっていました。リソーによると、1日1回はお米のご飯を食べるそうで、日本との意外な共通点を見つけられました。そのあと、お土産を渡し、守山や日本についてリソーに紹介しました。私は、茶華道部に入っていることを生かして、日本から持ってきた浴衣を着付けさせてあげると、喜んでくれました。また、3人で折り紙をしたのですが、リソーの持っていた本には、日本人の私でも見たことのない難易度の高い折り方がいろいろ載っていて驚かされました。難しいのは諦めて、鶴やモソーの顔をつくりました。そして、



プリンストン・ヒコデーだったので、カウアイ博物館へ連れて行っていただきました。カハハハ大王が1代目で、2代目のリホリホ大王は26歳で亡くなったこと、昔は植民地でパイナップルとサトウキビ畑が広がっていたことなど、ジェームズさんの話は興味深いものでした。昼食は、初めて「KAUAI RAMEN」を食べました。味は日本のラーメンとあまり変わらないけれど、サイズがとても大きかったです。



150年前にハワイへ初めて訪れた日本人が、ショロビグセンターのオープニングセレモニーの際持ってきてくれた鳥居、灯籠、手水鉢の置いてある庭園。

ホストファザーが働いている「NATIONAL TROPICAL BOTANICAL GARDEN」ジェラシックワイルドの撮影されたところ。裡を保管する部屋には、日本の植物の裡もありました。広大な自然が素晴らしかったです。

○ 3月27日 (水)

1限目は社会で、ハワイの歴史についての授業でしたが、先生の話されるスピードもはや、単語も日常的なものではないため、ちゃんと理解する、ということには難しかったようです。それから驚いたことは、生徒は、ノートに板書するのではなく、各自のノートパソコンに打っていたことです。とてもデジタル化が進んでいるのだと知りました。また、授業中でも、わからないことがあると、積極的に質問している生徒が多く感じました。

2限目はウクレレの授業でした。ウクレレをあまりしたことがなく、GやFなど、コードを言われてもわからなかったけれど、隣の子に聞くと、優しく、ゆっくりとわかりやすく教えてくれたので、だんだんできるようになって嬉しかったです。

3限目はハワイ語の授業だったけれど、先生が課外授業に変更してくれて、学校が管理している農業を見学に行きました。タロイモを初めてみて、想像より大きいことを知りました。アヒルやヒヨコ、ヤギ、豚など、動物もたくさんいました。昼休みには、朝食ゼンインゲンで買ったスモムスむすびを食べていると、日本語クラスの教員がリスニングテストをしていて、こんなこと言わないでろうというふうなおもしろい日本語の会話があったので、私たちが日本でしている英語のリスニングも、実はおかしい文があったりするのかな、と立場を変えてみることにしてみました。また、生徒たちが製作した日本語での料理番組も見せてくれました。まず、

レシピを常体で書き、口頭では敬体で話す練習のための企画らしく、楽しそうなので、逆に英語で同じことをしてみたいと思いました。夕方からの歓迎会では、カウアイ日本文化協会会長さん、アート梅津さん、ホストファミリーの皆さんなどが集まっていたので、タロイモコロフやおにぎり、ケーキなど、持ち寄りでたくさんおいしいお料理を用意していただきました。お礼に、HENANIO MORIYAMAを歌いました。みなさん、本当の家族のようになつて、本当に楽しい時間を過ごしました。最後に、残ってしまった料理も、それぞれ持ち帰り、ということには見習わなければいけない、と思いました。



○ 3月28日 (木)

1限目の焼き物の授業では、足で粘土を踏んで靴底の模様をつくり、道具で穴をあけて、母へのペンダントをつくりました。2限目のピアノの授業は、勝手にピアノを弾いていた、1つのまにか出ている生徒がいて、自由な光景で個性豊かだと思いました。3限目の写真クラスは、先生がとても陽気で、クラスへ入るとAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を踊って迎えてくれました。お礼で写真の加工を学んだ後、撮影会をして、人生で初めてアフロをかぶられて、楽しかったです。4限目は英語のクラスで、「アイスのコーンを食べるか」というようなエッセイについて、グループで話し合いました。しかし、何のことにしても授業しているかわからず困っていたけれど、「前回の授業の続きだからこれ読んでいい」とプリントを見せてくれて、それから友達になれました。カウアイ高校で過ごしたのは、2日、3日ほどでしたが、最終日の帰りの車を待つときには、何人もの喋り、仲良くなれた人たちが手を振ってくれたので、とても嬉しい気持ちになりました。そして、毎週木曜日にリソーがしているという、ボートレースを見に行きました。夕飯を家に帰ってタコスを食べた後、最終日だから、アイスを食べに連れていってくれました。ハワイらしいプレイが豊富で、マカドミアシーソルト味にしたら、すごくおいしかったです。

○ 3月29日 (金) 朝食は、マクドナルドのドライブスルーを体験し、いよいよお別れ。前日の夜に書いた手紙を渡し、ハグをしてバイバイをしました。会長さん、アート梅津さん、奥さん、などもお見送りに来てくださりました。

～まとめ～ 本当にあっという間の6日間でした。カウアイの自然を肌で感じ、現地のたくさんの人々と交流でき、とても多くのことを学びました。改めて、英語は世界共通語であるから、英語を話せることが多くの人とコミュニケーションがとれるという素晴らしいと感じたので、これからもっと勉強していきたいです。また、成長できたから再びカウアイを訪れたいです。最後に、このような貴重な体験の機会を与えてくださった方々に感謝しています。

守山夢プロジェクト 第一回高校生カウアイ島派遣 報告書

西出 昂

今回のカウアイ島への派遣を終えて2週間が経とうとしている今カウアイ島での5日間を振り返ってみると、カウアイの人々の温かさとカウアイの自然の美しさに心を動かされとても充実した5日間だったと思います。私はカウアイでの記憶を今でも鮮明に覚えています。短い時間ではありましたがとてもさまざまなことがありました。もはや私は今カウアイシックかもしれません。この報告書では主に私がカウアイ島で特に印象に残った3つのことについて書いていこうと思います。

私が特に印象に残った一つ目のことは、カウアイ島の人たちはとても自由で人生をとて楽しんで生きていたことです。しかし、自由でありながらもやるときはきちんとやるという切り替えがあるところがカウアイの人たちのすごいところだと思いました。特に、カウアイ高校では制服はなくみんな短パンやスウェットで登校し学校で指定されたTシャツを着ていました。日本の高校のような統一感はないですが、とてもラフな格好で親しみやすく、生徒もみんな仲が良くとても楽しそうでした。また、日本のように時間に追われることはほとんどなく、のんびりとしたとても過ごしやすかったです。

2つ目はカウアイの温かさです。ホストファミリーをはじめ多くの方々が私たちを温かく迎えてくださいました。リフエ空港に着いたときにアート梅津さんや地元の会長さんに迎えてもらい、カウアイ高校の生徒も私たちにとても温かく迎えてくださいました。カウアイ高校では日本語のクラスがあり日本語が話せる生徒が多くおり、さまざまな生徒が私たちに日本語や英語で話しかけてくれてわからないことなどを助けてくれました。カウアイ高校の生徒はとても優しい方が多くカウアイの人の良さがとても実感できました。また、カウアイの人たちは島国ということもあっていろんな人たちが知り合いで、お互いに助け合っていました。そのような姿を見ると私たちも見習うべきだと実感しました。私はカウアイに行って助け合うことの大切さを再度認識しました。

3つ目はカウアイの壮大な自然です。カウアイ島は「ガーデンアイランド」と呼ばれていますが、本当にその通りだと思いました。島のどこにいても自然に囲まれており、人々の自然に対する思いも素晴らしいものでした。カウアイの人々は自然とともに育ってきたといっても過言ではなく、事実私のホストファミリーもとても自然が好きな方々でした。カウアイの自然で特に心惹かれたことは、その美しい雨や風により浸食されてできた山々や海岸線といったところにある美しい木々です。カウアイ島のどこからでも見える浸食された山々はその歴史の古さを物語っており上に上るとより一層カウアイの自然の歴史の古さとその広大さに驚かされます。カウアイの自然は世界的に見てもとても価値のあるものでこれからも残していかないといけないものです。またカウアイ島にはニワトリがいたる所におりカウアイのマスコットとしてなじんでいました。カウアイ島の自然にはどこか懐

かしいところがあり浜辺や、山々にいるととてもんびりとした気持ちになれる心がとても落ち着きます。カウアイ島がとてもんびりとした島であることもその広大な自然によるものだと思います。

最後に

私は5日間でカウアイのことがとても好きになりました、2週間たった今でもカウアイにいたのが昨日のこのように思います。私たちがカウアイから学ぶべきことは山のようにあります。またカウアイと守山はのんびりとしたところなどどこか似ているところがあればまったく違うところもあります。私はより多くの高校生にこれからもカウアイに行ってほしいと強く願っています。これからもカウアイと守山の人と人とのつながりが続いていくことを願って。

最後になりましたが守山国際交流協会の方々をはじめたくさんの方々にお世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



カウアイ高校の皆さんと私たち3人

カウアイ島派遣報告書

2019年3月25日(月)～3月30日(土)

佐内 愛佳

カウアイ島の市長と出会う

カウアイ島に到着した日の夕方に、カウアイ郡のカワカミ市長を表敬訪問した。守山市のことや自分の将来の夢、カウアイ島についてお話ししたり、聞いたりすることができた。

また市長が得意だというマジックを、トランプを用いて披露して下さい、市長室は歓声に包まれた。温かく迎え入れて下さった市長に感謝の意を表したい。



カウアイ高校での体験授業



カウアイ高校に登校し、授業(クラス)を受けさせてもらった。現地では、日本の学校とは違い、自分のとりたい授業を選び学ぶことができる。カウアイ高校では8教科(日本語、ハワイの歴史、ウクレレ、ハワイ語、陶器、ピアノ、写真、英語)の授業を体験し、それぞれの授業の冒頭で自己紹介をさせてもらった。どのクラスで自己紹介をしても温かく歓迎して下さい、とても嬉しかった。ここではいくつかの授業を紹介する。

① 日本語クラス

現地で日本語を学んでいる高校生と、日本語と英語を交えて会話をした。好きな日本食や音楽など様々なことを話ことができ、とても楽しい授業であった。

② ウクレレクラス

ハワイではウクレレがとても人気だ。このウクレレクラスではウクレレの演奏のしかたやウクレレのコードを現地の高校生から教わりながら外国の音楽、日本の音楽、そしてカウアイ島に滞在中、現地の案内をして下さった方である、アート梅津さんが守山市をイメージして書いて下さった曲「HE NANI O MOROYAMA (美しい守山)」を全員で歌い演奏した。

私は初めてウクレレに触れたのだが、演奏が上手くできなくても音楽を通して現地の高校生と一つになった時間だった。



プリンス・クヒオ・デー

プリンス・クヒオ・デーというのはカウアイ島最後の王子、プリンス・クヒオの生誕日の3月26日でハワイ州だけの祝日である。この日、カウアイミュージアムを訪れカウアイ島の歴史を学んだ。カウアイ島はかつてサトウキビとパイナップルの2大作物を作っていたこと、最近では観光業が盛んだということなどをミュージアムの方が丁寧に説明して下さい、カウアイ島について深く学ぶことができた。



プリンス・クヒオの象

ホストファミリーとの交流



↑ ホストファミリーの方々

この度、迎えて下さったのはフランさん一家。カウアイ島で人気のあるスパムやカウアイラーメンに加えてベトナム料理やスペイン料理も頂くことができ、どれもとても美味しかったため今でもあの味を忘れることができない。



←スパム



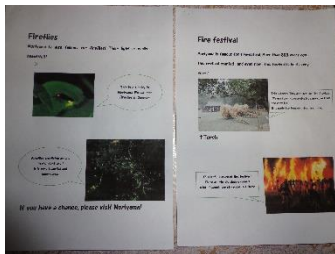
カウアイラーメン ↑



↑ ジュラシックツリーと恐竜の卵

また滞在期間中、お父さんが勤務している National Tropical Botanical Garden という植物園にも連れて行っていただいた。実はその場所は映画「ジュラシック・パーク」が撮影された地の一つでその風景はまさに映画の世界そのものだった。ジュラシックツリーと呼ばれる大木の下には恐竜の卵のレプリカが置いてあり、とても衝撃を受けた。

守山を紹介



作成した資料

少しでも守山を知ってもらうために火祭りやホテルについてまとめた資料を持参し説明すると、とても興味を示して下さい、「一度守山に行ってみよう」という言葉を受けることができて、嬉しくなった。

また、ホストファミリーの方にお土産として守山で作られたホテルせんべいやイチゴキャンディー、モーリーグッズなどをお渡し、折り紙でモーリーを折って友好を深めることができた。



研修を終えて

今回カウアイ島に派遣していただき、歴史や文化を学び自然を肌で感じ、そして現地の方々やカウアイ高校の生徒の方と交流を深めることができた。

最も印象に残っていることは、アート梅津さんやホストファミリーの方々、カウアイ高校の先生や現地の交流会の会長さんをはじめとして開催して下さい交流パーティーである。歌を唄ったり、お話ししたり、美味しい食事を頂いたり楽しいひとときを過ごすことができ、忘れられない思い出となった。

最後に、この度の研修に携わって下さったすべての方々に感謝し、この経験を今後の自分の糧として生かしていきたいと思う。

